

河馬

中島敦

青空文庫

河馬の歌

うす紅くおほひらに開ける河馬の口にキヤベツ落ち込み行方知らずも
 ぼつかりと水に浮きゐる河馬の顔郷ノスタルヂア愁も知らぬげに見ゆ
 この河馬にも機嫌・不機嫌ありといへばをかしけれどもなにか笑
 へず

赤黒きタンクの如く並びゐる河馬の牝牡めすをすわれは知らずも
 水の上に耳と目とのみ覗きゐていぢらしと見つその小さきを

×

×

わが前に巨おほき河馬の尻むくつけく泰然として動かざりけり

河馬

無禮なめげにも我が眼めの前にひろごれる河馬るしきの臀るさらひのあなむくむくし
臀るさらひのたゞ中にして三角の尻尾かはゆし油揚のごと

これやこのナイルの河のならばしか我に尻向け河馬は糞まりする
事終り小さき尻尾がパシヤくと尻を叩きぬ動きこまかに
丘のごと盛もり上る尻をかつ／＼も支へて立てる足の短かさ
三角の尻尾の先端さきゆ濁る水のまだ滴したりて河馬は動かず

狸

春しゅん晝ちゆうの静けきまゝに暫しまらくは狸の面つらの澁しきを嘉よみす
藁わらの上へに驚き顔の狸はもシヨペンハウエルに似たりけらずや

瞞(だま)すなど誰(たれ)がいひけむ瞞(だま)されて身を嘆(なげ)きなむ狸(り)の面(つら)ぞ

黒豹

ぬばたまの黒豹の毛もつやくと春陽(はるび)しみみに照りてるにけり
 思ひかね徘徊(たもとほ)るらむぬば玉の黒豹いまだ独(み)り身ならし

マント狒(ひ)

マント狒は身長三尺余、毛は長くして白色。純白のマント
 をまとへ

るが如し。但し面部と臀部のみ鮮かなる紅色（桃色に近し）
を呈す。

銀白の毛はゆたかなれどマント狒尻ひの赤禿包むすべなし

マント狒の尻の赤さに乙女子は見ぬふりをして去いににけるかも

白熊

仰あふ向けに手足ひろげて白熊の浮かぶを見ればのどかなりけり
白熊の白きを見ればアムンゼン往ゆきて還かへらぬむかし思ほゆ

眠り獅子の歌

何時いつ見ても眠るよりほかにすべもなきライオンの身を憐れみにけ
り

埒らちもなき状さまにあらずや百獸の王の日向に眠れる見れば

うとくと眠れる獅子の足あなうら裏に觸れて見たしとふと思ひけり

海越えてエチオピアより來しといふこのライオンも眠りたりけり

うつゝなき夫せの鼻先に尻を向けこれも眠れりめす牝めすのライオン

汝なが國の皇帝みかどもすでに蒙もうぢん塵と知らでやもはら獅子眠りゐる

仔獅子

獅子の仔も犬の仔のごと母親にふざけかゝるところがされけり
肉も未だ締まらぬ仔獅子首かしげ相手ほしげに我が顔を見る
親獅子は眠りたりけり春の陽ひに屈託げなる仔獅子の顔や

駱駝(らくだ)

生きものの負はでかなはぬ苦くるしみ悩の象徴かもよ駱駝の瘤は
やさし目の駱駝は口に泡ためて首差しのべぬ柵の上より

孔雀の歌

よく見れば孔雀まなこの眼切れ上り猛鳥まうてうの相ありくと見ゆ
 印(インド)なる葉廣菩提樹の蔭にしてひろげ誇らむこの孔雀とりの羽尾はね
 いと憎き矜恃ほこりなりけり孔雀はも餌を拾ふにも尾をいたはりつ
 リクキウふんたいの粉ふんたい 黛も色を失はむ孔雀一たび羽尾はねひろげなば

縞馬

縞馬の縞鮮かにラグビイのユニフォームなど思ほゆるかも

ペリカンの歌

ペリカンは水の浅處あさどに凝然と置物のごと立ちてゐるかも
 浴ゆあみして櫛くしげづ梳りけむペリカンの濡れたる翼はねの桃色ももいろほそげ細毛
 舶來の石鹼の香かも匂ひなむうす桃色のペリカンの羽毛はね
 ペリカンの圓つぶら赤目を我見るにつひに動かず義眼いれめの如し
 長ながはし嘴くちばしの下の弛たるみも凋しぼみたりふくらむものと我は待ちしに

秃鷲

プロメトイスさいいな苛さいみにけむ秃鷲も今日は寒げに肩を張りゐる
 アンデスの巖根嶮いはねこびしき山の秀ほの鋭どき目かもコンドルの目は
 ジヤングルに生しふる羊齒草しだくさえびかづら間なくし豹はたちもとほる

を

短か手でを布留ふるの神杉かんすぎカンガルー春きたれりと人招くがに春の陽に汝なが短か手を千早ぶるカンガルーは耳を搔かんとするか
去年見しと同じき隅すみに石亀は向ふむきたり埃(ほこり)を浴びて

山椒魚

山椒魚は山椒魚らしき顔をして水につかりゐるたゞ何となく

鶴

あさりする丹頂の前にしまらくは目^ま守りたりけり心清^{すが}しく
 水浅く端然と立つ鶴瘦せて口^{くちべに}紅ほどのとさかの紅^{あか}や

火喰鳥

火くひ鳥火のみか石も木も砂も泥も食はんず面^{つら}構へかも

ホロホロ鳥

ホロホロとホロホロ鳥が鳴くといふ霜降色の胸ふくらせて

駝鳥

障^{ハードル}碍^{やす}も容易^{やす}く越^{やす}ゆべし汝^{やす}が脚^{やす}の逞^{やす}しくして長^{やす}きを見^{やす}れば
 何^(どこ)處^(どこ)やらの骨^(こつ)董^(どう)店^(てん)の店^(みせ)さきで見^{やす}たることあり此^(こ)奴^(やつ)の顔^(かほ)を
 何^{なに}故^(ゆゑ)の長^{なが}き首^(くび)ぞも中^{なか}ほどをギユウと搦^なめばギヤアと鳴^なくらむ

大蛇

うねくとくねりからめる錦蛇^{ひとつ}一匹^{ひとつ}にかあらむ二匹^{ふたつ}にかあらむ

大青
蜥蜴^{とかげ}

口あけば大青蜥蜴舌ほそく閃々せんとして青せいえんはし
奔る

再び 山椒魚について

山椒魚は山椒魚としかなしみをもてるが如しよくよく見れば

麒麟(きりん)の歌

黒と黄の縞のネクタイ鮮やけき洒落者みやびをとこと見しは僻目ひがめか
春の夜のシャンゼリゼエをマダム連れムツシュ・ヂラフがそゞろ

歩むも

社交界の噂なるらむ麒麟氏が妻をかへりみ何かいふらしき

ダービー

山高も持たせまほしき男ぶり麒麟しづくくと歩みたりけり

ぬかるみ

泥濘よを避けて道行く禮装の紳士とやいはむ麒麟の歩み

ダンディ

隙もなき伊達男ぶりやワイシャツの汚れもさぞや気にかかりなむ

ハイエナ（鬣狗）

死にし子の死亡届を書かせける代書屋に似たりハイエナの顔は

カンガルウ

力無きばつたの如も春の陽に跳び跳びてをりカンガル―二つ
さくうち 柵内の砂乾すなきみて 春風しゅんぷうにカンガル―跳ぶ跳躍とびのさぶしも

熊

立上りみや禮する熊が月の輪の白きを賞めでて芋を與へし

熊立てば咽喉の月の輪白たへの蝶ネクタイとわが見つるかも

象の歌

年老いし灰色の象の前に立ちてもものうきまゝに寂しくなりぬ
象の足に太き鎖見つ春の日に心重きはわれのみならず

心はれぬ様に煎餅さまを拾ひる象はジャングルを忘れかねつや

×

×

子供一人菓子も投げねば長き鼻をダラリブラリと象徘徊たもとほる

花曇る四月の晝を象の鼻ブラリくと揺れてゐたりけり

徘徊たもとほる象の細目ほそめの賢さかし眼めに諦あきら観らめの色ものうげに見ゆ

この象は老いてあるらし腹よごれ鼻も節立ふしだち牙は切られたり

象の顎あごに白く見ゆる毛剛こはげにて口には涎よだれ湛たへたるらし

鱐魚わにの歌

さきつ年アフリカゆ來し鰐怒り餌を食はずして死ににけりとぞ
 故もなく處移されて知らぬ人の與ふる食を拒みけむかも
 飢ゑ死にし鰐の怒りを我思ふわれの憤りに似ずとはいはじ

(ことうもり)
 蝙蝠 蝠

小笠原の大蝙蝠は終日を簞蟲のごとぶら下りたり
 晝を寝る倒さ蝙蝠よく見れば狡げなる目をあいてるにけり
 手の骨の細く不気味き蝙蝠はひねこび顔に何をたくらむ

穴熊

うつし世をはかなむかあはれ穴熊は檻をりの奥處どにべそをかきゐる
 穴熊の鼻の黒きに中學の文法の師を思ひいでつも
 穴熊の鼻の黒きが氣になりぬ家に歸りて未いまだ忘れず

雉

春の陽を豊かに浴びてさ野ぬつ鳥きぎし雉し子は専もはら砂浴びてゐる
 家かけつ鳥か鶏けの匂を思ひけり野ぬつ鳥きぎし雉しの小舎の前まへにして

(ふくろう)
梟

何處いづこにか汝なが古頭巾なまこ忘れ來し物足らぬ氣げぞ汝なれの頭の
 大きなるおどけ眼まなこも陽ひの中に見えぬと思もへば哀れなりけり

猪

藁屑わらこと泥どろにまみれてぼやきつゝ猪いのししの口くちうごめきあさる

カメレオン

日に八度色やたひを変ふとふ熱帯のオツボチユニスト機會主義者（青き魔術師）カメレ

オンぞこれ

蠅來ればさと繰くりいだ出すカメレオンの舌の肉色瞬間に見つ

長く圓き肉色の舌ひらめくやカメレオンの口はたと閉ぢけり

カメレオンが木（すが）に縋り（すが）ゐる細き尾のくるくると巻く巻きのおもし

ろ

カメレオンの胸の薄さや肋骨みどりも翠なす腹に浮きいでて見ゆ

鶉（う）の歌

豆州稻取海岸にて

山直ちに海に崩れ入る岩の上に飛沫浴びつゝ鵜は立ちてゐる
 我が投げし石はとどかず崖下の氷雨しぶかふ荒磯の鵜に
 たちまちに海黒み來ぬ巖いはの上の鵜の聲風に吹消されつゝ
 雨まじり吹く風強み岩の鵜は翼收めてこらへてをるも

鸚鵡(おうむ)の歌

まどろみゐてふと眼をあけし赤羅鸚鵡我を見いでて意外おもはずげ気なり
ひごろも緋衣の大嘴おほはし鸚鵡我を見てまたもの懶うげに眼をとぢにけり
たはれめ娼婦の衣裳きぬを纏へる哲学者鸚鵡眼をとぢもの思ひをる
 いにしへの達磨大師に似たりけり緋衣曳きてものを思へば

眼をとちて日にぬくもれる緋鸚鵡の頬の毛脱ぬけていたくしげな
り

緋に燃ゆる胸毛に嘴くちを挿入れて鸚鵡うつく眠りてゐるも

麻の實をついばむ鸚鵡かたへなる我を無視してひた食はみに食はむ

嘴はしと嘴と疾く動きつゝまつ黒の鸚鵡の舌はまるまりて見ゆ

麻の實の殻を猛烈に弾はじき飛ばす赤羅裳鸚鵡あからもひたむきなるを

年老いし大赤鸚鵡翼はねさきの瑠璃色なるが伊達者めきたり

小(こえび)蝦の歌

——土肥海岸所見——

潮ひきし岩のくぼみの水溜り許多小蝦の影ひそみある
 飴色に陽に透きとほる小蝦らの何か驚きにはかに乱る
 幾多ここだの小蝦隠れし砂煙やがて静まり水澄みにけり
 砂煙の砂の一粒一粒が音なく沈み蝦隠れけり

黒鯛の歌

——土肥釣堀にて——

巖陰いはかげはさ青に透り黒鯛の尾緒白々と妖あやしく翻かへる
 洞窟に光は入らず黒き水の湧くが如くに黒鯛群むるる

仔山羊の歌

熱川あたの浜に一匹の仔山羊あり

海に向ひてしきりに啼く

その聲あはれなりければ

荒濱に仔山羊が一つ啼きてをりあはれ仔山羊は何を欲ほりする

大島も黒雲がくり隠れけり仔山羊は何を見らむとすらむ

曇り日の海に向ひて立ち啼ける仔山羊は未だ角みじかかり

潮風にみじかき髯を吹かせある仔山羊の眼ぬち哀しと思ふ

青空文庫情報

底本：「中島敦全集」筑摩書房

2001（平成13）年12月20日初版第1刷発行

※○付きのルビは編集部の付したもので、編集部の方針により現代仮名遣いになっています。

※「機會主義者」《オツポチュニスト》（青き魔術師）の「（青き魔術師）」は底本では「機會主義者」の左側に注記されています。

入力：桑田康正

校正：小林繁雄

2005年1月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

河馬 中島敦

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>